平成 31 年 3 月 16 日
北関東フォーラム
於：シムックス

中斎塾　北関東フォーラム
平成 31 年度 第 3 回

本日のテーマは「ものごとは、何故・何故と考える習慣が大事」と致しました。1 月、2 月､3 月と言葉は違いますが同じテーマでお話しています｡自分の人生を如何に考えるか、人生をどのように生きていけばよいか・・・その判断基準について、どこかではっと氣がつく。或いは何かに目覚める。それは、こんなきっかけで得られることがあるという話を色々な角度から申し上げます。

紹介書籍として、最初は入りやすい本を紹介し、次は少し硬い本、今回は読みにくい本ということで、本日は中山正和さんの書かれた『悟りと発見』（ＰＨＰ出版）を回覧致します。

述 ― 御代替わり

ご存知の通り、5 月 1 日に元号が変わります。まだお話する時期ではないと思っていたのですが、先ほど川村前代表から新元号について話をして欲しいと要望がありましたので、少し申します。

日本の元号は世界的に見ても非常に特殊なものです。今回、天皇陛下が「譲位」のお気持ちを述べられましたが、政府は「退位」と「即位」と言い換えています。なにしろ先例が 200 年前ということなので、その間に新しい憲法が出来ましたから、政府は憲法にそって「譲位」というものを解釈せねばならないので、とても困っているわけです。憲法違反にならないように、意識して「譲位」という言葉を使わずに「退位」、そして「即位」という言葉を使っています。

昭和天皇が崩御された時は、大喪の礼が行われました。参列した諸外国の方々からは、日本の伝統的儀式に立ち会えたことを光栄に感じ厳粛な氣持ちになった、という言葉が沢山聞かれました。今回は譲位による御代替わりになります。

論語の根幹は「述」だと私は考えています。「述」とは承継、バトンタッチです。論語の中にあるものの考え方は「述」（バトンタッチ）で、その時に「仁」（思いやり）が重んじられている。ですから世間では論語の基本は「仁」であると言われますが、思いやりを代々伝えて行くという「述」が論語の基本だと私は思っています。

「述」というものを今の時代に置き換えてみると、経営者であれば事業承継ということになるし、国体（国の在りよう）で考えれば、「御代替わり」という言葉になります。同じことを表現するのに、その人の立ち位置によって言い方が変わるということを覚えておいて下さい。

いずれにしても今、日本の改元について諸外国から注目されています。

「平成」という元号の成り立ちについては、何度もお話していますように、安岡正篤先生が発案したと言われています。元号については、政府が漢学者 5、6 人から良いと思われる元号を出して貰い、3 案程度に絞っていって、同時に有識者に意見を聞き、内閣の閣議にかけて決まるという流れのようです。平成の元号について色々な関係者が各所で少しづつ話しているものをつなぎ合わせると、ある程度の政府の誘導があるように感じました。

さて、新元号はどうなりますか。既に流れは決まっていると思っています。安倍さんは日本の古典から採ったとしたいわけだから、そういう方向で進んでいるでしょうが、正式にこれでいこうと腹を決めたような匂いは伝わってきません。

先日、二階さんが安倍総理の四選を匂わせる発言をしました。安倍さんの思惑で、自分が再選される方向が着々と作られているのであれば、効果が大きい日本の古典（大和言葉）から選ぼうとするでしょう。もし、後継レースに出ている人の根回しがだいたい終わって、次は自分だということになれば、前例踏襲で中国の古典も重んじる方向で進むのではないでしょうか。ですから総理大臣の去就によっても、かなり左右されると思います。

恒例の質問

では、恒例の質問に参ります。

○　今年に入って、良い日が続いていると思う方

あくまでも主観でお考え下さい。天秤にかけないことです。

○　今年に入って、まるっきり嘘をついていない方

まるっきりと言った途端に手を下げた方がいらっしゃいます。では、

○　今年に入って、比較的嘘をついていない方

皆さん、手が挙がりました。ここらへんは言葉の微妙な所で、心の中でＮＯと思ったら、なかなか手を挙げられないのです。ですから主観と言っています。

○　今年に入って、有難うと言い、有難うと言われることが多かった方

○　今年は健康法を実践している方

手が挙がらない人が何人かおられました。今日は健康法をしていないと思ったなら、寝

ながら深呼吸だけしてごらんなさい。息を長く出して、出し終わったら鼻から息を吸います。それを３回くらいやれば、十分健康法を実践していると言えます。

○　今年に入って、自分磨きをしている方

これは事上磨錬（日常生活の中で我が身を磨く）です。椅子に座って勉強をするだけが磨くということではありません。磨くとは学ぶことです。日常生活の中で、これは良いなと思えば、それが磨くということです。

○　昨晩寝る時に、明日以降を過去形でイメージして寝た方

私は今、悪玉コレステロール値が高いので、医者に薬を飲むように言われたのですが、食事と運動で２ヶ月間様子を見ることになりました。スマホを取り替えて、健康管理というアプリも入れました。そして、寝る前に ＜悪玉コレステロールの数値が下がって良かった！＞ と過去形でイメージして寝ています。２ヶ月後、数値が下がっていなければ私のやり方がまだまだ足りないということになるし、下がっていれば、このイメージは成功している、良い人生だと思うことが出来ます。

恭・寛・信・敏・恵

では、論語の視点に参ります。本日は陽貨篇 6～7 です。

【六】子張（しちょう）　仁（じん）を孔子（こうし）に問（と）う。孔子（こうし）曰（いわ）く、能（よ）く五（いつ）つの者（もの）を天下（てんか）に行（おこな）うを仁（じん）と為（な）すと。之（これ）を請（こ）い問（と）う。曰（いわ）く、恭（きょう）　寛（かん）　信（しん）　敏（びん）　恵（けい）なり。恭（きょう）なれば則（すなわ）ち侮（あなど）られず、寛（かん）なれば則（すなわ）ち衆（しゅう）を得（え）、信（しん）なれば則（すなわ）ち人（ひと）任（にん）じ、敏（びん）なれば則（すなわ）ち功（こう）有（あ）り、恵（けい）なれば則（すなわ）ち以（もっ）て人（ひと）を使（つか）うに足（た）ると。

子張はとても才能豊かな弟子で、孔子とは 50 歳くらい歳が離れています。ですからここは、将来を嘱望される若者と老師との会話と思って下さい。

子張が仁について孔子に質問をした。

「五つのことをきちんと実行しなさい。そうすれば仁と言えるね」と孔子が答えた。

更に子張が、その五つとは何でしょうかと質問した。

孔子が答えた。「恭・寛・信・敏・恵である。恭（礼儀正しく、人を敬う）であれば、重々しく威厳があるように見えるので、侮られることはない。寛（人を受け入れる度量がある）であれば、自然と人が集まる。信（誠実）であれば、人に信頼される。敏（手早く仕事を区切りよくこなす）であれば、仕事がきちんと出来る。恵（恵み深い）であれば、この人の下で働きたいと自然と人が集まるから、適材適所に人を使うことができる。」

恭・寛・信・敏・恵、そのうちのどれか一つで結構ですので、胸に手を当てて、自分は礼儀正しいかどうか、重々しく見えているか・・・等々、自問自答してみて下さい。

先ほど岡本理事長が、中斎塾フォーラムにもっと沢山の人が集まってくるようにしたいと言われました。であれば、＜あの人が学んでいる所ならば行ってみよう！＞ と思われるような人物になるよう自分を磨いていきましょう。

山﨑先生は今、県議選を控えておられます。よく、政治家は舌が２枚あると言われます。２枚も３枚もあるような人は、あちこちで良いことを言って目立つから、舌は１枚という人の声が残念ながら小さくなっている現状です。

やはり政治家の場合は、後ろ姿（実行力）を見て、この人のやることならば信用できると思って、票を入れるわけです。ポイントしてはその人が、

恭・・・礼儀正しいか。例えば、顔を見たら「こんにちは」と自ら声をかけてくれるか。

寛・・・大きな器であるか。

信・・・嘘をつかないで、約束を守っているか。

敏・・・人から頼まれたことを、区切りよく手際よく処理していく能力があるか。

恵・・・人さまに何かをして差し上げているか。

そういうことの繰り返しだと思います。

ちなみに、世の中で一番素晴らしい「恵」は、顔施だと思います。文字通り、笑顔を施すという意味です。最近、本屋さんに行くと、樹木希林の『一切なりゆき』という本が置いてあります。表紙の希林さんの写真は、ご本人が「顔施」だと言い残したそうです。笑顔は人を元氣にし、人を明るくし、人の心の中に生きる希望を持たせることが出来る。何も差し上げるものがなくても、笑顔を差し上げることが最大のお布施ですね。

山﨑県議は如何でしょうか。よろしくお願い致します！ と握手をしただけでは１票です。握手をしてニコッとすれば、その方がもう１票を誘ってくれます。笑顔にはそういう効用があります。顔施が出来ると人が集まるから、会社を経営しているのであれば良い会社になって、人を使うに足るだけの人間になっていくと思えばよろしいでしょう。

【七】佛肸召ぶ。子往かんと欲す。子路曰く、昔者由や諸れを夫子に聞けり。曰く、親ら其の身に於て不善を為す者には、君子は入らざるなりと。佛肸中牟を以て畔けるに、子の往くは之を如何と。子曰く、然り、是の言有り。堅きを曰わずや、磨けども磷がず。白きを曰わずや、涅すれども緇まずと。吾豈匏瓜ならんや。焉んぞ能く繋り

て食(く)われざらんと。

佛肸は、晋の国の中牟という地方の代官です。

佛肸が孔子を招請したので、孔子は行こうとした。

・・・この時孔子は56歳ですから、仕官を諦めて教育に生きると決める前です。まだまだ血の氣があって、何処かで自分の理想の国を作りたい、自分を呼んでくれる人がいたら行きたいと思っているわけです。

ゴーン被告は、日産に見限られたけれども私を呼びたいという会社があちこちにあるはずだから、そこに行くためにも裁判には負けられない。仮に裁判でおかしな判決が出ても、他の会社から呼ばれるだけの内容の裁判で終わりたい…と思っているのではないでしょうか。

子路が孔子を止めて言いました。「先生は昔、君主が悪い事をしていると自覚しながら政を行っているような国には行かないと言いました。佛肸は自分が治めている中牟に拠って、晋国に反旗を翻しました。そんな所に行くとは如何なものですか。」

孔子が答えた。「その通りだ。しかし、こういう諺もある。『磨いても薄くならない本当に堅いものを、堅いと言わずにおられようか。染めても黒くならないのに、白いと言わずにおられようか』。私は苦瓜ではないぞ。どうして苦瓜のようにぶらさがったまま誰にも食べられずにいられようか。（どこかに仕官しなければ、世の中の役に立たないではないか）」

「堅きを曰わずや、磨けども磷がず。白きを曰わずや、涅すれども緇まず」・・・見るからに堅い人間を蕩かしてやろうと思って、いくらちょっかいを出しても全然動かない。品性の真っ白な人間を泥水につけても、泥から出れば真っ白のままだという意味です。孔子は、私はどこかに仕えて自分の力を奮いたいのだ。硬くても少しは食べられる所があるし、全体が真っ白であれば、若干黒くてもよいのだ。それこそ度量があるというものだ。分かったかい子路よ・・・という思いがあって、この諺を出しています。

では、今日の論語をベースに、時事評論に参ります。

「信なれば則ち人任じ」（嘘をつかない・約束を守る）という科白で考えると、ゴーン被告の場合は、嘘をついてしまったわけです。

初めて参加される人もおられるので、ゴーン事件について少し触れておきましょう。表面に出て来たのは日産の社長以下役員がゴーンに造反したという事実ですが、背後にあるのは日本政府とフランス政府の戦いです。マクロン大統領は選挙に落ちたくないものだから、ゴーンの再任を認める代わりに、日産と三菱をルノーに吸収させるという密約をした。つまり、フランス政府とゴーンが結託したわけです。一方の日本政府は、日産も三菱も吸収合併されては困るわけです。なぜなら、それを引き金にして外資がどんどん日本に入って来て、日本の企業が吸収されていくのを止めなければならないから、日本政府は動いていたわけです。そこら辺がゴーン事件の出だし第一幕です。

第二幕が上がったなら登場人物が増えて、日本ＶＳフランスの他に、中国、ロシア、イギリス、アメリカがいる状況になっていました。

これは、日本とアメリカは最初から手を組んでいます。アメリカは盗聴王国ですから、フランス政府の動き、日産・三菱を吸収合併するべくゴーンが日本にやって来る段取りを掴んでいました。そして日本政府に連絡をし、日本政府が手を打って、空港での逮捕劇となったわけですが、その筋書きをアメリカ政府と日本政府で描いて、事前に日産の役員にも伝えていました。ですから、証券取引所が動かないのも納得出来ます。同じように虚偽記載で起訴されたライブドアや西武鉄道は、すぐに上場廃止になりましたね。政府が手を打っているから証券取引所は動かないのです。最初からアメリカと日本は手を組んでいるわけですが、まだアメリカは表に出て来ません。しかしそれが少し透けて見えて来ている状況だと私は思っています。

イギリスは日産の工場をフランスにとられては困ると思っているから、日本・アメリカ連合にすり寄って来ています。中国は日産も三菱も全部自分の国に工場を持って来たいと思って手を打っていますし、ロシアは漁夫の利を得ようとしています。

ということで、各国の思惑がひしめき合っているのが現状です。ゴーンの容疑は、虚偽記載の他に 500 以上あるようで､そのうち罪に問えるものを絞り込んでいる最中ですから、どうひっくり返っても何らかの罪で起訴されるでしょう。ただ、新しい弁護に変わったことによって、検察も裁判所も日本の思惑だけで動けなくなりました。アメリカの思惑だけを氣にして動いていたものが、今度は、世界各国の反応を見ながら手を打たねばならない状況に入っています。

ですから今は、第三幕くらいになっているのだろうと思います。そのうち、ゴーン被告が記者会見をするようなことになると、また変わって来ると思います。いずれにしても何らかの罪をつけて執行猶予という所までもっていきたいのでしょうが、まだまだ時間がかかりますね。

今朝の新聞にも出ていましたが、ルノーの新人事が発表されました。ゴーン被告の側近ら3人の役員が一人は副社長から特別顧問に降格、一人は定年で退任、一人は退社となり、新たに執行役員7名が登用されました。ゴーンがいなくなった後の体制は着々と進んでいるというのが現状で、これらが全て表舞台に登場したところで第三幕目が完全に開いたということになると見えます。

その時に、裁判のポイントになるのは「信なれば則ち人任じ」です。そして裁判所に求められているのは、「敏なれば則ち功有り」ですが、現在は手際よくきちんきちんと片づけられていません。そろそろ日本の裁判の仕組みも変わらざるを得なくなるのではないかと感じます。

お時間が参りました。最後に一つご紹介します。中斎塾フォーラム顧問の矢野彈先生が出しておられる月刊「カレント」の中に面白い記事がありました。「毎月勤労統計調査」なるものがメディアを賑わせていますが、国の統計調査をする職員の数は、2004年は6241名だったのが2014年には1959人になっているとありました。10年間で7割も社員が減っているのです。残りの3割の人数で、膨大に増えてくる調査が出来るでしょうか。仕事だけ増やして、人数をべらぼうに削っているのですから、出来るはずがありません。そういうことを何故メディアは伝えないのでしょうか。きちんと事実を伝えて欲しいと思っています。

ものごとは何故・何故と考える習慣が大事

中斎塾フォーラムの基本哲学は「足るを知る」です。困った時は「足るを知る」を判断基準に考え直しをすることです。何事によらず物事は何故、何故、何故・・・と考える習慣を身に付けるとよろしいでしょう。分からないことがあったら、簡単に人に聞かずに、まず自分で調べることです。自分で調べるのは億劫だから調べないというのは、本氣ではないからです。自分が苦労して調べて、どうしても分からなかったら聞く。そして納得することです。

その一つの例です。中村天風先生が進駐軍の将校たちに、人はなぜ生きるのか、人生を豊かに充実して生きるための秘訣として、ヨーガ哲学を講演されたことがあります。その時、アメリカ本土から一人の女性将校が聞きに来ていました。その女性将校はヨーガを学んでいて、悟りの秘訣を知りたいと思い色々な勉強をしたけれども分からなかった。ヨガの先生達からは、自分で見つけるしかないと言われるだけで、悩み苦しんで悶々としていたわけです。

天風先生が、肩の力を抜いて、肛門をきゅっと締め、下腹にぐっと力を入れる、この３つを同時に行う。これをするとヨーガの最高の奥義が得られる。人は何故、この世に生まれ出たかが悟れます・・・とクンバハカの方法を実践した瞬間、その女性将校は奇声を上げて壇上に飛びあがり、涙をポロポロ流しながら天風先生に抱きついたそうです。

何故、何故、何故・・・とずっと思い続けていると、どこかではっと氣がつく。はっと氣がついた時が悟った瞬間です。是非、そういう瞬間を獲得して下さい。中斎塾フォーラムで、何故・何故・何故・・・と掘り下げていくと、この秘訣が身に付いて、自分は何故この世に生まれたのか、何をしなければならないのか、はっと氣がつきます。どうぞ、そこを目指して一緒に学んで参りましょう。